

## 夜の自然を感じる

先日、森の子レンジャーの活動で夜の森を散策しました。これは、「レンジャー」に夜の森を体験してもらい、森の違った一面を知ってもらいたい。」というレンジャーの思いから計画したものです。

私自身、久しく夜間の自然観察をしていなかったで、内心楽しみにしていました。というより、ライトを消して真っ暗な森の中を歩くのは、初めての経験だったのかも知れません。それほど夜の森は刺激的でした。(ホタル観察やコウモリ観察は経験したことがあるのですが…)

活動当日は、夕暮れとともにレンジャーと森に向かい、日が落ち暗くなるのを森の中で待ちました。木々が光を遮るので思ったよりも暗くなるのが早く、街では体感することのない闇が訪れます。まさしく「漆黒の闇」といった感じでした。そのような暗闇を待っていたかのように夜行性の動物たちは活動を始めます。甘酸っぱい匂いが立ち込める木の付近では、「カサカサ」と何かの動く気配が、それはコナラの樹液に群がるカブトムシやスズメガの仲間でした。また、歩くのをやめ静かにしていると遠くから「ゴウホウ、ゴロホウ、ゴウホウ」という声が、それは夜狩りを行うフクロウの鳴き声でした。昼とは違って暗闇に視覚が遮られるので、聴覚や嗅覚を頼りの自然体験となりました。

結局、レンジャーがライトを消して真っ暗な森の中を歩くということはありませんでした。(少し怖かったようです。)しかし、こうしたドキドキの体験が大人になっても記憶に残り、良い思い出となっていくのではないのでしょうか。非日常である自然体験がレンジャーの成長の糧になつてくれたらなど将来に思いをはせる、そんな一夜の活動でした。

(佐々木)

